

2024 年モニタリング結果

井の頭池の カイツブリ

井の頭池では 2014 年から 3 回のかいぼりを行い、外来魚のオオクチバスとスルーギルを根絶することができた。かいぼり後には在来種の魚やエビが回復し、それらを食物とするカイツブリが繁殖を再開するようになった。今号では 2024 年のカイツブリの繁殖状況を報告する。

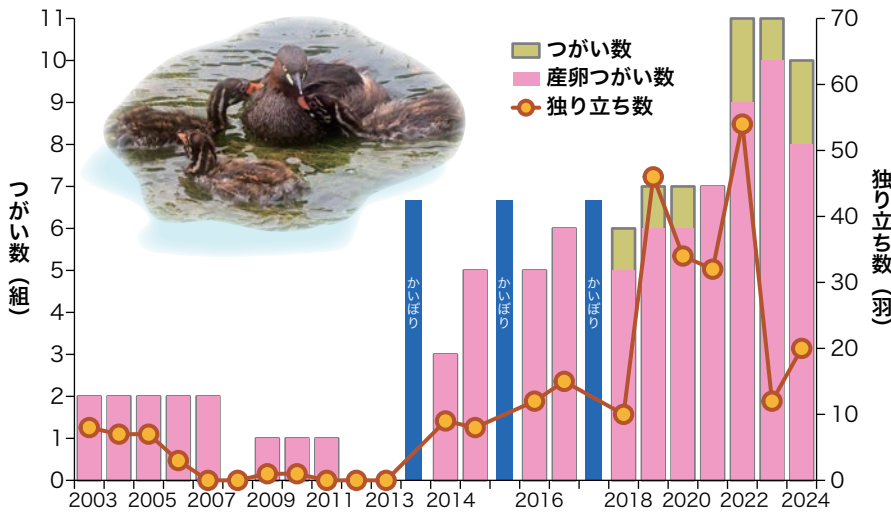


図 1. カイツブリのつがい数、独り立ち数の推移

※孵化してから 1 ヶ月後に生存していたものを独り立ちと見なした。

井の頭池で行った水鳥調査の結果、2024 年には 10 つがいのカイツブリが生息していたことがわかった。このうち 8 つがいで産卵を確認した。都内でこれほどのつがい数が見られる場所はほかにはない。

井の頭池ではここ数年、カイツブリのつがい数はあまり変化していないが、独り立ち数は大幅に減少している。2024 年に生まれたヒナのうち、成長して独り立ちしたと思われるものは 20 羽で、最盛期と比べると半減している。

図 2 は井の頭かいぼり隊が行っている魚・エビ類のモニタリング結果である。定置網 1 個あたりに捕れた魚等の捕獲数の推移を見ると、かいぼり後にスジエビやギンブナなどが大幅に増加したことがわかる。ただし近年は捕獲数が少なくなっている。

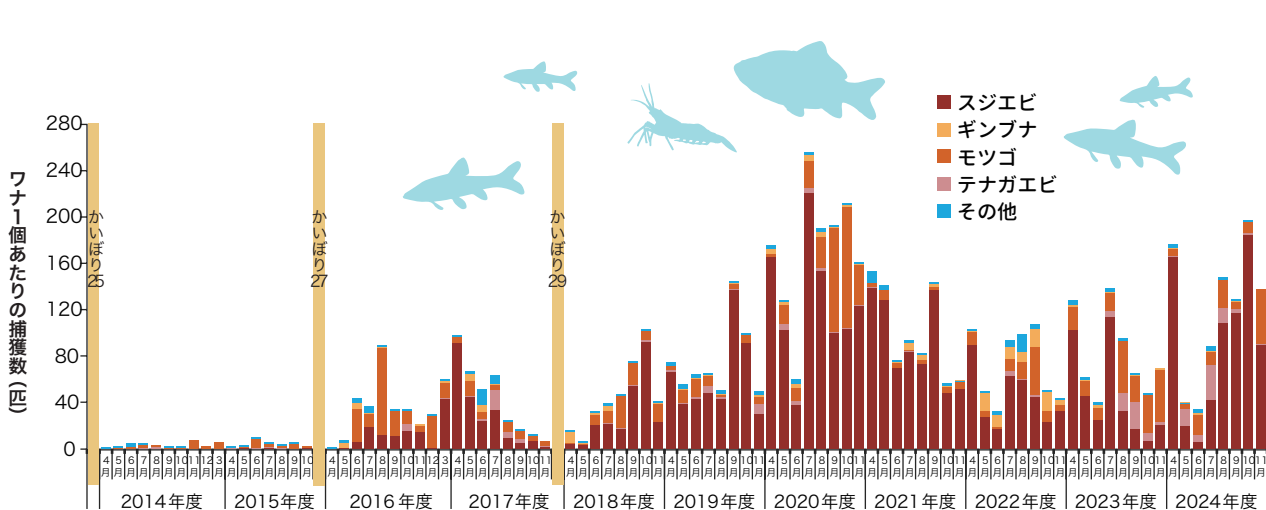


図 2. 定置網 1 個あたりの魚・エビ類の捕獲数の推移

おり、生息密度が低下していることがうかがえる。とりわけ、カイツブリの育雛期にあたる 5 ～ 6 月の捕獲数の減少は顕著で、2018 年と同程度にまで低下している。カイツブリの繁殖が低調になっていることと、魚などの生息密度の低下がリンクしているのか、引き続きモニタリングで確認していく。

Topics



ワナを回収する井の頭かいぼり隊



穴の開いたワナの補修

アメリカザリガニ防除
2024年結果報告

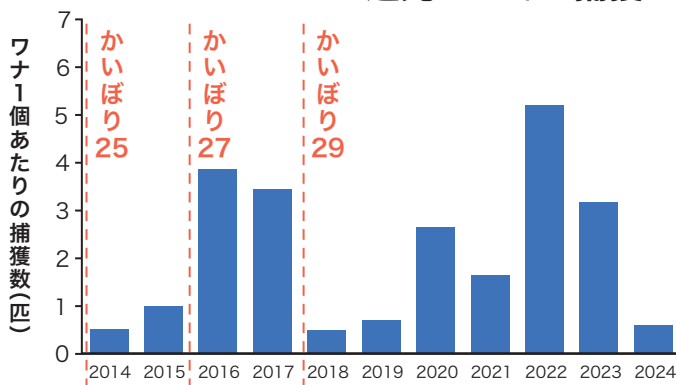
井の頭池での 2024 年のアメリカザリガニの捕獲数が、前年よりも大幅に減少した。池の環境変化と外来種防除活動の相乗効果によるものと考えられる。

アメリカザリガニ防除活動は、毎年 4 月から 10 月にかけて行っている。2024 年は池の全域に 223 個の捕獲ワナを設置し、ワナにかかった生物を週 1 回の頻度で回収した。今期捕獲できたアメリカザリガニは 6226 匹で、前年の 23520 匹よりも少なかった。ワナ 1 個あたりの捕獲数 (C P U E) も大幅に減少していた (図 1)。

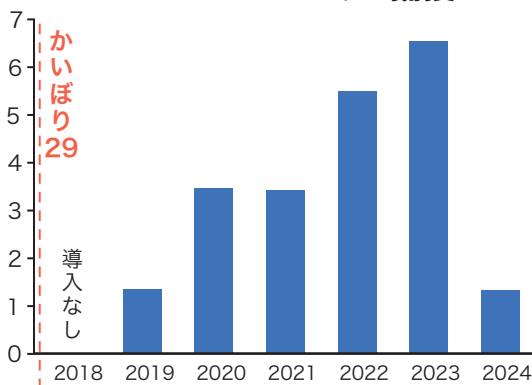
井の頭池では毎年、ワナの数を増やしなから、捕獲効率が高いワナへの転換も行い、捕獲圧の強化を進めてきた。しかし、2020 年にアメリカザリガニの生息数が増大した。アメリカザリガニの食物と隠れ家にもなる外来水草 コカナダモが急増し、アメリカザリガニがすみやすい状態だったと思われる。

こうした中、2023 年にはコカナダモが激減するというできごとがあった。水質の変化が関係しているようだ。2024 年のアメリカザリガニの減少は、前年のコカナダモの衰退と、防除活動の増強が影響していると考えられる。

遮光カゴでの捕獲



ザリガニ BOXでの捕獲



2024 年にはコカナダモに増加の兆しを確認されているため、2025 年はアメリカザリガニの増加が予想される。春からの防除活動の再開に向け、井の頭かいぼり隊がワナの増産を進めているところだ。

図 1. ワナ 1 個あたりのアメリカザリガニ捕獲数の推移

保全活動
写真館盛況だった湿地整備イベント。
計 3 回、73 人が参加。タシギが来ました
(提供：井の頭かいぼり隊)